

「だまこ」がくれた元気の輪

秋田県五城目町立五城目第一中学校

三年 小林 想

中一の夏、秋田県五城目町に引っ越してきました。まだ慣れなくて、不安な日々を過ごしていました。ある日、学校の授業で五城目町を代表する郷土料理「だまこ」の作り方を教わりました。「だまこ」とは、つぶしたご飯を三センチほどに丸め、鶏がらや煮干しの出汁にしょう油、みそなどで味をつけ、鶏肉、ねぎ、セリ、ごぼう、きのこの具とともに煮る料理で、そのとき、教えてくださったのが、私の引っ越し先の近所のおばあさんでした。まだ、引っ越して間もない私に「あんだが越してきた想くんだな。五城目さ、よく来てけだなあ。」と温かい笑顔で歓迎してくれました。今まで「だまこ」や「きりたんぼ」といえば、鶏だしでとったしょう油味でしたが、五城目町の「だまこ」は、鶏がら、煮干し、昆布、玉ねぎやにんじんでじっくり出汁をとって、今まで食べたことのない深みのある味で感動しました。地域のおばあさん達の人柄がにじみ出た温かみのあの優しい味で、ついつい何杯もおかわりをし、お腹も心も満腹になりました。

あの味が忘れられず、その後母と一緒に何度かだまこ作りに挑戦しました。だまこ作りは思ったより難しく、なかなかあの味になりません。近所のおば

あさんから、昆布と煮干しの出汁とにんじんと玉ねぎの出汁をそれぞれ別々の鍋で分けて作ってから合わせることや鶏がらでじっくり出汁をとることなどのポイントを聞いて試行錯誤するうちに、ようやくあの味に近づいてきました。親戚にごちそうしたところ、「うめごと、うめごと。これが五城目の味だな。」と喜んでくれました。

ところで私には幼いときから兄弟のように育ってきた親友がいます。引っ越してくるときも、その親友と離れ離れになるのが辛かったのですが、だまこ作りを覚えてから、その親友の家にだまこを持って会いに行くようになりました。親友も親友の父も母もだまこの大ファンになってくれて、私の訪問を心待ちにしてくれるようになりました。その親友の父親が実は、若天性アルツハイマーという病気を患っていて、私が物心ついたときから、その病気を患って進行していました。言ったこと、やったことをほとんど忘れ、乗っていった車も忘れ、徘徊をして夜になつても帰らないときがあり、私と親友とで探したことが何度かありました。それでも不思議と、いつも親友と一緒にいる私の顔は忘れずに覚えてくれていました。そして、私のことをとても可愛がって、私に話しかけてくれたので、私も親友の父親がおかしな言動をしても、それが普通で、親友の父親のことが大好きでした。

しかし、私が転校する一年前のとき、いつも笑顔を絶やさず気丈だった親友の母親が、暗い顔で泣きながら我が家を訪れたことがありました。親友も私も動揺して足がすくんでしまったことを覚えていました。親友の母親は私の母と一緒に何か深刻な話をしていました。そのときはよく状況が分かりませんでした。後で、アルツハイマーによるおかしな言葉や行動を近所の人達が好奇の目で見て、心ない言葉

を浴びせたのだと知りました。それでも、それだけであればまだ我慢はできたそうなのですが、「頭がおかしいから分らないだろう。」と雪で道をふさいで通れなくするなど、理不尽な扱いを受けたことにひどいショックを受けたようなのです。その話を聞いた私はとてもやりきれなさを感じました。アルツハイマーという病気によって、そのような冷たい仕打ちや差別を受けている人がいることをそのとき初めて知りました。親友や親友の母も私の知らないところで世間の冷たい目にさらされ、辛い目に遭っていたのだと気づきました。人を差別することがいけないことは誰でも知っているはずですが、差別や偏見は私たちの日常や社会の中に常に潜んでいるのです。人間は、珍しいことや慣れないものを受け入れることが難しいのだといわれています。「自分たちと違う。」それが差別や偏見につながることでよくあります。親友の家族は父親を施設に入れることなく、今も一緒に暮らしています。親友の家族の絆をうれしく思うとともに、世の中の人がもっと病気を理解してくれたらと思います。

食べ物はどうなときにも人を慰め、元気をくれます。「医食同源」という言葉があるように、命にとって大切な食事が心と心をつなぎ、辛い気持ちを励ますこともあります。私は、「だまこ」を通して、新しく住む町の良さを知りました。そしてそこに住む人たちが私たち家族を温かく受け入れてくれたことに、今とても感謝しています。また、「頑張る！」という気持ちになれたのは、親友の父親の存在があったからです。親友の家には、近いうちにまた我慢のだまこを持っていきます。私に力を与えてくれたすべての人にこれからも元気をあげたいと思います。

中一の夏に転校してきたとき、不安でいっぱいだった私は、たくさんの「ちから」を与えてくれた人やものがあることに気付きました。幼いときから一緒に親友とその家族、自分の家族、新しい町で出会った人々に感謝の気持ちを込めてこの作文を書きました。